

わがまちのふるさと探検記(7)

今月号は轟を〆紹介します。



中州「三島」轟集落



轟は、十和地区の中心から少し東の昭和集落の一部で、国道三八一号線を十和総合支所より東へ約六キロメートル、国道から四万十川を挟んで対岸に位置する集落です。

集落と国道の間には四万十川最大といわれている中州「三島」があります。

この「三島」には、広大な水田と河原があり、水田の裏作目の「ナバナ」の栽培が盛んで、春には島の半分ほどが菜の花畑になります。



三島の菜の花畑

また、島の上流部分にはバンガローや調理場などが設置された三島キャンプ場があり、島周辺は、カヌーや鮎かけの絶好のポイントとなっており、シーズンには多くの観光客が訪れます。国道側には、「三島直販所」があり、地元で作ったお寿司やおもち、そばなどの昔懐かしい品々がいつもならんでいます。



三島直販所
(お問い合わせ先: Tel./28-5626)



お寿司、おもち、パン、そばなど
おいしいものばかりですよ

直販所は現在十一人が交代で販売しており、「はじめたがは三十年たあいうかえよ」ということです。

仕事で通りかかると人をはじめ、おとなりの愛媛県などからの買い物客も多く訪れ、取材中にも

多くの人が訪れ、その中のひとりのお客さんは鬼北町から買い物に来たとのことでした。

四月には味噌づくりが始まるためしばらくお休みして、四月末から「キャンプ場」の受付をかねて来年の味噌づくりまで営業します。

地域では古くからみそづくりが盛んで、「三十年たあいわんまえからつくりゆうわえ」という「とどろみそ」は三島直販所はもとより、毎年高知市で開催されている「ふるさとまつり」でも販売され、当日はお得意さんが大きな入れ物を持って買いに来ます。現在は三人が地域の加工所でつくっています。また、全国各地で販売され「北海道にだけはまだだしたことないねや」ということでした。

このとどろみそは国産大豆を使うなど、品質にこだわった製造を一貫して行っており、今後とも良いものをつくっていききたいと言っておられました。



素材にこだわった手作りどろみそと生産者お三方

編集後記

No.13

この冬は暖冬であったため、桜の開花も早いのではないかと考えていたが、3月に入り、寒の戻りともいえるのでしょうか、冬を思わせる日が続き、なかなか桜が咲くような状況ではありませんでしたが、このままでもさくさくとなり、桜も一斉に開花し、町役場の本庁舎裏の桜も見ごろを迎えています。

また、毎年この時期は異動発表の時期でもあり、私も新たな職場へと移るとなりました。

本報を担当して5年、この間町内のお祭りやイベントごと取材に伺いながら、いろいろな方に話を伺い、イベント一つをとっても、そこに多くの方の協力、そして、苦勞があり、その上になり立っていかなくては知りませんでした。それなりに忙し日々を過ごしましたが、私的には充実した時間を過ごさせていだいたと思っております。皆さんの皆さまにご協力いただきまして、ありがとうございます。

今月号から新しい体制での「本報」と「町」の発行となりますが、引き続きよろしくお願いいたします。

(庶)

町の人口

(3月1日現在)	
男	9,907
女	11,018
計	20,925
世帯数	8,795
平均年齢	男性・48.1
	女性・52.9
	全体・50.6

四万十町ホームページアドレス
「<http://www.town.shimanto.lg.jp/>」